一年間の豊作を占う　斎宮の世ためし　絵馬

現在、竹神社の大切な宝物として絵馬が伝えられています。絵は両面に描かれ細かな点では違いますが大きな絵の構成はほぼ同じです。絵の中央にはたくさんの稲をのせた馬が描かれ、上部には左から小槌、中央には三つの砂金袋、右には笠と蓑が描かれています。

斎宮の絵馬については、古くは長禄３年（1459）の『碧山日録』に「詣西宮、々前有画馬」や寛正２年（1461）の『経覚私要鈔』に「伊勢斎宮辻絵馬」との記述があり、少なくとも15世紀には絵馬に関する行事があったことがうかがえます。

その後、絵の内容には変遷があるようですが、絵馬の図柄による一年間の天候や農作物の吉凶を占うものでした。中世には斎宮・斎王の歴史性と結びつき、謡曲『絵馬』もでき、参宮客も多く通る伊勢街道沿いに絵馬堂があったことから「斎宮の世ためし」として広く知られるものとなりました。

中町を流れる「エンマ川」は、かつての絵馬堂の横を流れており、絵馬＝エンマになまったものと思われます。用水のような小さな川ですが、斎宮跡の東の端とも考えられ、重要な道が交差する場所に絵馬堂があったようです。

竹神社に伝わる絵馬

絵馬堂があった辻
（横方向が伊勢街道）

竹神社の宮司であった北野家に伝わる斎宮の絵図
（延享２年（1745）のものを大正年間に写したもの）

キーワード：伊勢街道、絵馬、竹神社、エンマ川、中町